

「もう我慢できない♡ 僕う、おばさんに僕のぜえくんぶ…、
食べさせて♡」

「あ…、あ…、あ…」

「あああああああー!!」



今日は誘惑した男の子の精子が思ったより美味しかったから、
その男の子を全部食べたくなっちゃった淫魔なおばさん。
尻尾を膨らませて、その大きな口で男の子を頭から
吞んでしまいました

「あ♡ 出たあ♡」

「ふふ♡ 食べられて射精しちゃうなんて、いけない子♡
僕って変態さんなんだね♡」

おっぱいでおちんちんを挟まれて、扱かれて搾られている最中、
淫魔の尻尾に食べられてしまった男の子。雄の本能からもう助からないと、
種の保全の為に淫魔のおっぱいに漏らしてしまいました



「いいわよ♡ このままおっぱいで気持ち良くしてあげるからね♡
僕はもう助からないから最後まで気持ち良くしてあげるからね♡」

「ほお♡ おばさんのおっぱいは柔らかくて気持ち良いでしょ♡
このまま天国を味わいながら溶りけてしまいなさい♡」

とうとう全身を淫魔の尻尾に食べられてしまった男の子。身体が熱くなっていき、
だんだん溶けてきました。このまま溶けて死ぬ絶望感から、ぴゅくんぴゅくんと
淫魔のおっぱいに漏らし続けてしまいます。そして…



「んっ♡ 出たあ♡」

「僕が溶けたところろザーメン♡ おばさんのおっぱいに…♡ あっうい♡」

男の子は死んでしまいました。おちんちんから男の子の溶けた体液がザーメンと共に噴き出したのです。最後まで淫魔の柔らかいおっぱいに包まれた快楽の中、男の子は尻尾の中で溶けて淫魔に吸収されてしまいました。

END

